

韓統連大阪通信紙
自主
 チャジュ
386号
2023年5月号



発行 在日韓国民主統一連合
 (韓統連) 大阪本部
 〒544-0034
 大阪市生野区桃谷3-13-6
 TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378
 毎月1日発行 購読料 年間3000円
 郵便振替 00940-7-314392
 民族時報社 大阪支社

**米国情報機関の韓国国家機関への盗聴行為は明確な主権侵害！
 ～韓国政府は信頼関係を揺るがす行為に嚴重に抗議せよ～**

4月11日付のハンギョレ新聞によると、米国情報機関(CIA)が韓国の国家安保室を盗聴していたことが明らかになった。友好国による国家機関への「盗聴・通信傍受」事件は韓国社会に衝撃を与えているが、韓国大統領室は米国政府に抗議や謝罪を求める気配がないばかりか、尹大統領の国賓待遇の訪米前に事態の鎮静化に努めていた。韓国メディアは米国の顔色をうかがう政府の低姿勢を嘆く記事が多くみられた。

米国の「盗聴・通信傍受」は韓国ばかりではなく、イスラエルや国連事務総長も対象になっていたことが判明した。18日、ドゥジャリク事務総長報道官は記者会見で不快感を示した(4/19・共同)。さかのぼって2013年9月、米国国家安全保障局が、ブラ



▲主権侵害する米国は謝罪しろと訴える韓国市民団体

ジルマ・ルフセ大統領の通話や電子メールを傍受していたことが発覚、翌月に予定していた国賓待遇の招待による訪米を取りやめたことがあった(2013/9/18・日経)。

これに反し韓国大統領室は、米国に対して真相究明や再発防止を求めることもなく、逆に「資料の大部分がねつ造だった」と被害がなかったかのような言説に終始している。しかし、主権国家としての厳粛な態度を示す事案であることに変わりはない。

「盗聴・傍受」の事実はSNSで拡散して判明したが、韓国に関する「盗聴・傍受」内容は先に辞任したキム・ソンハン前国家安保室長とイ・ムンヒ前外交秘書官のウクライナに対する155mm砲弾の支援に関する3月初めの会話内容だったことが明らかになった。「盗聴・傍受」の手法は

電子装置を用いたもので、韓国の国家安保政策の中枢を担う担当者の会話が米国側に筒抜けだったことが分かった。専門家の話によるとデジタル時代の諜報は過去より容易になったことが分かる。

室内の会話は窓のガラスの揺れなどで読み取れるらしい。PCなどの電子機器はハッキングで内容がわかるのは素人でも知られていることだが、さらにわずかに漏れる電磁波をひろって画面を再現できるらしい。つまり国家機密を盗む行為に対

して万全の防御態勢を構築しておくことが大切なのは、大統領室でも十分承知しているはずではないのか。なぜ国家機密がいつも簡単に漏洩したのか。その対策は十全だったのか疑問がわくところだ。拙速な大統領執務室の移転に伴う工事で完璧な防諜設備が整えられ

たのか、その検証が待たれるが、韓国政府は米国政府に嚴重に抗議しなければならない。

さらに問題なのは、ウクライナに対して155mm砲弾を供与することを米国が求めていたことが今回の漏洩で明らかになったことだ。米国のウクライナ支援で155mm砲弾が枯渇状況で、韓国にウクライナへの砲弾を供給することを求められたが、ロシアが敵対行為とみなす恐れがあり、韓国は米国へ補充する形で行われるとのことだ(2022/12/13日・読売)。すでに50万発が輸送されたとの情報もある価格は、一発100万ウォン(約10万円)だという。先の「対日屈辱外交」に続き、今回のウクライナ支援が米国の国賓待遇招待への「手土産」と映るのは私だけだろうか？
 (鐵)

【翻訳資料】 惨事を止めるために、どれだけの焼香所が必要なのか ～安山に集まったセウォル号惨事・梨泰院惨事遺族～

9回目のセウォル号惨事の日、「みんなが安全に生きる権利」に向けた訴えは依然として強かった。304人の犠牲者を懐かしむセウォル号惨事追悼式には、159人の命を亡くした梨泰院惨事犠牲者遺族と、これを記憶する市民たちが共に参加した。



▲安山で開かれたセウォル号惨事9周忌記憶式

4月16日、安山ファラン遊園地で開かれたセウォル号惨事9周忌記憶式「記憶・約束・責任」は、真相究明のために過去9年の時間を思い出し「何一つ解決されていない」状態で再び前進することを誓う場となった。

金グァンジュン4・16財団理事長は追悼辞で「どれほど叫んだ要求と訴え、真相究明と責任者処罰、再発防止策など、どれも今日まできちん行われていない。逆に“政争の道具”に転落させて国民葛藤を高めたのが過去9年」と述べ、「“もう止めたらどうか”と依然として沈黙を強要されているのが今の状況だ」としながら「“10年たてば山河も変わる”とよく言われるが、その10年をすべて満たしてこそ、これらの課題が解決される。その期待をもってまた1年頑張る。全力を尽くして頑張らなければならない」と語った。

故金スジンさんの父親の金ジョンギ4・16セウォル号惨事家族協議会運営委員長は「惨事当時の子ども関連省庁教育部長官、惨事当時、ただ一人も救助しなかった海洋警察庁長などは当然この席に参加して追慕しなければならないにもかかわらず、目を洗って探してみても姿が見えない」と批判した。

続いて金委員長は真相究明、責任者処罰、再発

防止対策の樹立などで政府と国会の役割を批判しながら、安全な社会を作るために「セウォル号運動を拡散させていく」と述べた。彼は「昨年10月29日、若い生命159人が犠牲になった惨事が再び起こり、再び他の国民が私たちのように悔しい遺族になった」と述べながら、「私たちはここで止まったり、あきらめないだろう」と訴えた。

今年5月「4・16セウォル号惨事10周忌委員会」発足を準備する準備委員会は、宣言文を通じて「ここで止められない。私たちの経験と旅程を記憶し、分かち合うことは必ず必要だ。すべてが安全に生きる権利を制度的に確立し、すべての災害惨事犠牲者、被害者の権利を保障し、国民の生命と安全を無視する国家権力が存在しないよう新たな誓い、新たな約束、新たな行動を始めるだろう」と明らかにした。

記憶式では、4・16合唱団と市民合唱団が共にした304人の大合唱団が舞台上で合唱を披露した。



▲舞台上に立った304名の市民合唱団

政府側からはチョ・スンファン海洋水産部長官が記憶式に参加して追悼辞を読んだ。チョ長官は「海水部はセウォル号惨事が残した痛い傷と国民の叱責を忘れずに胸に刻む。より安全な海、より安全な国を作るために最善の努力を尽くす」とし「セウォル号遺族、被害者の痛みを癒すことに細心の注意を払って支援を惜しまない」と話した。

(韓国インターネット新聞「民衆の声」4月16日付)

屈辱的な韓日首脳会談糾弾 尹錫悦政権は退陣しろ！ 韓統連時局行動

3月の屈辱的な韓日首脳会談以降、韓国内で尹錫悦政権退陣の声が高まる中、韓統連主催で「尹錫悦政府糾弾！強制動員解決法撤回！親日屈辱外交糾弾！韓統連時局行動」が4月9日（日）、名古屋市民会館（名古屋市中区）で開かれた。

時局行動では宋世一（ソン・セル）韓統連委員長が主催者挨拶を通じ、強制動員解決法について「世界のどこに被害国が被害者に補償するのか？加害国が被害者に反省し、謝罪して賠償するのが当然だ。尹錫悦政府は日本に対して屈辱外交を行った。私たちは被害者の声を記憶・継承し、歴史正義を実現しなければならない」と語った。



▲プラカードアピールを行う時局行動参加者

続いて、参加者からの発言が行われ、金昌範（キム・チャンボム）大阪本部副代表委員は、今回の解決法について「最も許せないのは被害者の方が“お金のために闘っていた”と誤解されることだ。今後、日本で排外主義がさらに大きくなるのが心配される。韓国民衆と連帯して被害者の主張を日本で正しく伝え、私たちも一緒に闘っていこう」と話した。

金昌五（キム・チャンオ）事務長は閉会辞を通じて「最も深刻なのは、日本の主要メディアが今回の韓日首脳会談をすべて支持、歓迎しているということだ。この状況を考慮した時、日本で韓統連が先頭に立って国内同胞たちと力を合わせて闘争していかなければならない」と強調した。

参加者たちは「尹錫悦政府を糾弾する！」「強制動員解決法を撤回せよ！」などのスローガンを叫び、尹錫悦政府を糾弾した。

韓日関係の歴史と尹錫悦政権の 対日政策について認識を共有する 韓統連セミナー2023

韓統連大阪本部主催による今年最初の韓統連セミナー「尹政権の対日政策と私たちの課題～戦後補償問題のゆくえ～」が4月16日（日）、KCC会館（大阪市生野区）で開かれた。

セミナーでは初めに、9年前の同日に発生したセウォル号惨事の犠牲者への黙祷を行った後、金隆司（キム・ユンサ）韓統連大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「韓日首脳会談以降、韓国では対日屈辱外交糾弾、尹政権退陣の声が高まっています」と述べ、「今日の報告と討論を通じ、正しい韓日関係を作るためにはどうしたら良いか、皆さんと共に考えていきたいと思ひます」と語った。



▲金昌範副代表の報告を聞く、セミナー参加者

次に、金昌範大阪本部副代表委員が報告を行った。金副代表は、戦後の米国の対日政策の変化と1965年の韓日条約締結までの経緯を解説しながら、特に韓日条約について「日本の植民地支配の是非の判断をあえて曖昧にし、被徴用者への補償について言及されていない」と指摘した。

続いて、尹錫悦政権の対日政策の考えについて「“慰安婦”問題は外交的には2015年の韓日合意で完全決着という立場で、過去よりも未来優先の韓日関係を追求している」と述べた。そして3月の韓日首脳会談は「韓国側は全面譲歩し、日本側は戦後補償問題を韓国の国内問題として片づける方向付けを確認した会談だった」と評価し、「韓日首脳会談以降、尹政権の支持率は低下し続けている」とし、「韓国民衆が韓日関係を正しく解決するために声をあげていることを日本の中で正しく伝えていこう」と語った。

報告後は質疑討論と今後の行事予定が紹介され、最後に金昌五大阪本部副代表委員が閉会挨拶を行った。

【声明】 四月革命63周年 在日韓国人青年声明

今日、私たちは民族史に燦然と輝く四月革命から63周年を迎えた。

尹錫悦政権発足から約一年となる今日、私たちが尹錫悦政権に対して危惧していたことはすべて現実のものとなり、想像すらしなかった惨事が拡がっている。検察権力を動員した政治報復と公安弾圧が横行する検察独裁体制が敷かれている。米国依存経済がより進行し物価高騰で庶民の生活は以前に増して苦しくなっている。南北関係は完全に遮断され、韓米合同軍事演習に核搭載可能なミサイルの発射訓練で応える「力対力」の軍事対立状況が今後も継続すると見られる。韓日関係では韓国が日本に強制動員問題の「解決案」を提示し、日本側が謝罪も、賠償も、強制動員の事実さえ認定しないという条件付で受け入れるという屈辱的な合意がなされ「1965年の韓日条約

(日韓基本条約)で解決済み」という公式が補強された。そしてこれらの原因のすべてが「文在寅前政権の無能のせい」であるとのたまひ、支持率30%台であるにも関わらず韓半島南部の「王」であるかのように振る舞っているのが第20代韓国大統領尹錫悦である。

私たちの祖国は「ヘル朝鮮」の再来、あるいはそれ以上の全方位的な惨事が拡大しているが、民衆が主体者となって闘う「闘争の歴史」は今日も引き継がれている。就任から半年もしない内にキャンドルデモが始まり、数万人の市民が自主的に参加している。10月29日、梨泰院惨事が発生し159名の尊い命が奪われた中、政府は「遺族が政治勢力化する」とし遺族の分断を図った。この非人道的な行いへの怒りが共感を呼び、キャンドルはさらに大きく燃え上がっている。また強制動員「解決案」が発表された後は「自主独立」のスローガンが掲げられ、市民は建国以来の根本矛盾の解決を求め立ち上がっている。日帝解放78年、停戦協定70年、そして四月革命から63年の節目を迎える今日、闘争は最終局面に至っている。

韓国のすべての闘争の原点は四月革命にある。日帝植民地支配から解放された祖国は東アジアの

支配力維持を図った米国の手によって分断させられた。米国の援助を受けて誕生した李承晩政権は朝鮮戦争に乗じて軍事統帥権を米国に明け渡したことをはじめ、傀儡(かいらい)政権として民衆の生命を脅かす独裁政治を敷いた。度を超える不正選挙で自らに権力を集中させたことや対立する政治家にスパイ容疑をでっち上げ処刑するなど、民主主義を根本から否定する暴挙が横行していた。

「生きられない！変えよう！」殺人も厭わない独裁政治に韓国全土が立ち上がった四月革命は多くの血が流れる中で大統領を下野にまで追い込んだ。



▲青年学生が先頭に立って闘った四月革命

しかし掴み取った勝利は米国の後押しを受けた朴正熙軍部5・16クーデターに奪われ、反共の旗の下で韓国は再び独裁時代へと回帰した。四月革命の成果は軍靴で踏みにじられたが、四月革命の正義の戦いと勝利は海を越え在日同胞に大きな希望を与え、私たち韓

青が誕生し四月革命精神を海外においても継承・発展させている。

今日における闘争課題は「尹錫悦政権糾弾」に集約される。民主主義を踏みにじり、同じ民族である朝鮮との軍事対立を深め、植民地侵略の謝罪と賠償を自ら放棄する尹錫悦政権では私たちが求める祖国の自主的平和統一と在日同胞青年の民族的解放はとうてい実現できない。日帝植民地支配の生き証人である私たち日同胞青年が尹錫悦政権に怒りを持って真っ向から立ち向かうことが求められている。

またキャンドル市民が求める「自主独立」は単なる政権交代ではない、体制転換を実現してこそ達成することが出来る。外勢とその追従勢力によって振り回される建国以来の構造的矛盾を打破し、民衆が国家の意思を決める大韓民国に生まれ変わることが今日における四月革命の完遂だと言える。

私たちは四月革命精神を継承する在日韓国人青年として祖国の自主的平和統一を求め闘う韓国民衆、国内青年学生と固く連帯し、四月革命完遂のため闘っていくことを決意する。

2023年4月19日 在日韓国青年同盟

【コラム】

海東の槿花郷

五月に入れば、空は少しずつ夏の気配をまとう。公園の桜はすでに濃い緑葉を茂らせ、藤棚には紫の花房がさがる。やがて五月雨降りしきる頃、ムクゲは静かに大きな蕾を蓄えている。

ムクゲ（無窮花・ムクゲ・木槿）は夏の花として知られている。その花は早朝に咲いて夕方に閉じ、「槿花一朝」と儂さの例えにもされる。しかしその樹は初夏から秋にかけて次から次へと多くの花を咲かせ、力強い生命力を感じさせる。

この花は韓国の国花として一般的に知られている。特に法律で定められてはいないが、慣習として国を象徴する花として扱われており、人々に広く親しまれてきた。

ムクゲがこのように国の象徴として扱われるのは古くからのことである。中国古代の地理書『山海経』では、おそらく我が国を指す「君子国」について次のように記している。

「君子国はその北にある。衣冠をつけ剣を帯び、獣を食う。二匹の縞の入った虎を傍らに置く。その人々は謙虚で争いをしない。薰華草（ムクゲ）があり、朝に生まれ夕に死ぬ」『山海経』海外東経、君子国。

短い紹介文にわざわざムクゲの説明を入れるあたり「君子国」の重要な名物と捉えられていたことがうかがえる。『山海経』は当時の中国における世界観や各地の神話を記した書であり、空想的な描写も多く含まれる。しかしながら、この「薰華草」の「朝生夕死」という描写は、実際のムクゲの特徴と一致している。

さて、ここで「君子国」と称されたのは、おそらく箕子朝鮮の伝説がその背景にあるのではないかと考える。かつて周の武王が殷を討った後、武王は殷の紂王の叔父であった箕子を訪ねて、国を治める天道について質問した。箕子は応えて、天から禹（夏王朝の創始者）に伝えられた洪範九疇という治国の大法を説いた。箕子はその後、朝鮮

に封じられて周の臣下とはならなかった。

『漢書』ではさらにこう記す。

「殷の道が衰えて、箕子は朝鮮に去り、その民に礼儀、田蚕、織作を教え、楽浪朝鮮の民に犯してはならない八条の法を定めた。…（中略）…しかるに東夷（東の異民族）は天性が柔順であり、南、西、北の異民族とは異なる。故に孔子が、道の行われぬことを悼み、海に筏を浮かべて九夷（東方の九つの異民族の国）に居らんと欲したのは、理由のあることだ」（『漢書』地理志、燕地）。

孔子が戦国の世に周の礼法が廃れたことを嘆き、

東の国へ行きたいと嘆いた逸話は『論語』にも記されている。衣冠を整え、人々が謙虚である東方の「君子国」が、古代中国で語られたのは、こうした理由からではなかろうか。

その後、我が国の儒学者はムクゲの花を自国の名称に用

いた。新羅の文臣である崔致遠が記した上表文には、新羅の別名として「槿花郷（ムクゲの郷）」という文言が出てくる。897年、唐に対して渤海が、席次を新羅よりも上位にするように願ったことに対して、唐はこれを許さず、旧来通りの席次にするよう命じた。これに対し新羅王は崔致遠に文章を作らせ、唐の決定に対する感謝を上表した。

「もし皇帝陛下が不許可の英断を下さなければ、必ずや槿花郷（新羅）の廉讓はおのずと衰え、桔矢国（渤海）のふりまく毒気はますます盛んになったことでしょう」（『孤雲集』表、「謝不許北國居上表」）。

新羅の美称として「槿花郷」を用い、儒教における美德とされる「廉讓」を強調するのは、「箕子朝鮮」「君子国」といった古来の伝説を踏まえたものではないかと推測する。

かように我が国はムクゲの花を自国の誇りとしてきたのではないかと。韓国国歌の「無窮花三千里」の一節に思う。（好）



▲無窮花

【投稿】

戦後ゼロ年の時代考証

金昌範(キム・チャンボム)

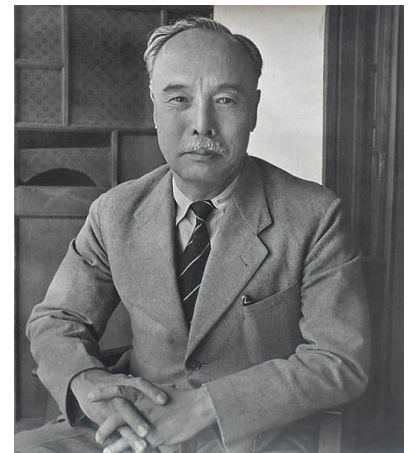
4月17日に放映された「映像の世紀(副題:「ベルリン戦後ゼロ年」)」という番組をたまたま目にした。衝撃的で印象深かった。

第2次世界大戦終結直後、敗戦国ドイツの首都ベルリンでは、食糧難にあえぐ市民たちが動物の死骸に群がる一方、占領軍(ソ連、米、英、仏)によるドイツ人女性に対するレイプが記録だけでも11万人に及ぶほど頻回し、ドイツ人男性に対するリンチも各地で繰り返された。ドイツ人市民たちの多くは、そうした暴力を避けるために自らをユダヤ人と偽装した。ナレーターは『そうした暴力の温床を作ったのは、他にもないナチス・ドイツであった』と指摘する。なるほどナチズムという巨大な暴力を生み出した歴史を教訓化するうえで、その表現は的確であろう。だからと言って戦勝国による暴力は罪に問われないのだろうか。

第2次世界大戦は『ナチズム、ファシズムに対する民主主義の勝利』ではなかった。実際、アジアでは戦勝国、特に米国がアジアで体現したものは民主主義でも道義でもなく、自国が主導する世界を作るために、自主独立に突き進もうとする諸国に対し圧迫と干渉を繰り返すことだった。そして、それが最も顕著だったのは朝鮮であった。

日本の敗戦により、その植民地支配からの解放を迎えた日の翌日、最も有力な指導者のひとりであった呂運亨(ヨウウォン)は、5000人の聴衆を前に報復ではなく、建設を呼びかけ、万雷の拍手

を浴びた。全国の刑務所から解放された16000名の政治犯たち、学生、労働者、農民、あらゆる階層、境遇の民衆が、日本帝国主義に対する憎悪と怒りを自主独立祖国建設の力へと昇



▲故呂運亨先生

華し、朝鮮全土の津々浦々に瞬く間に自治組織を築いていった。自主的民主政府の誕生は間近だった。米軍が上陸するまでは…。

平和で幸福な未来を仰ぎ見ていた人々のうち、その後祖国が分断され、戦争によって400万人以上の同胞が犠牲となることを誰が想像したであろう。そして、その禍根が未だ祖国に対立と葛藤、そして、いつまた再開するかわからない戦争の脅威が目前にあることなど。

他国の不当な干渉さえなければ、朝鮮民族は自分で自分の未来を切り開いて行ける。その未来とは公平で平和なアジアの未来ともつながると信じて疑わない。

80年近く残したままの、私たちのテーマ、新しい時代を築こう。

◆◆行事紹介◆◆

対日屈辱外交糾弾！韓米日軍事同盟反対！平和協定締結！

光州民衆抗争43周年記念 在日韓国人全国集会

日時：5月21日(日)午後1時：開場／午後1時30分：開会

場所：PLP会館(地下鉄扇町駅4番出口より徒歩3分)

内容：情勢講演・講師：金昌五 韓統連事務長

意見表明・平和協定キャンペーン・決議文採択

主催：韓統連 TEL/FAX：03-4362-5284